

2)地下水動態解析調査

広里地区現湿原区域および湿原再生サイトにおける地下水収支(動態)を、現地透水係数、地下水位、水質調査と共に、3次元地下水モデルを用いた数値解析により把握し、広里地区現湿原区域および湿原再生サイトの地下水収支の相違を明らかにする。

再生サイトでリファレンスサイトの地下水収支に近づけるよう3次元モデルを用いて予測し、効果的・最適な施工法を検討する。再生事業後は、BACI(Before、After、Control、Impact)デザインを用いて効果の検証を行う。

上記1)、2)調査のため、広里地区内の約150地点に地下水位計等を設置。そのうち約120地点で1、2m四方のコドラートを設置し詳細植生調査を実施。

3)野生生物詳細調査

- ・ 広里地区に生息する動物(哺乳類、鳥類、両生爬虫類、昆虫類、土壤動物等)の現況を把握する。
- ・ 広里地区に生息するタンチョウの行動実態を把握(高所作業車からタンチョウの行動を観察)するとともに、採餌場所と採餌しない場所における餌資源を把握する。
- ・ 広里地区におけるキタサンショウウオの生息分布調査、行動調査、食性調査、生息環境調査等を実施する。
- ・ 再生サイトとリファレンスサイトでは、高精度の野生生物調査を行い、再生後のモニタリング等による評価をするための基礎資料とする。

4)詳細地形図作成調査

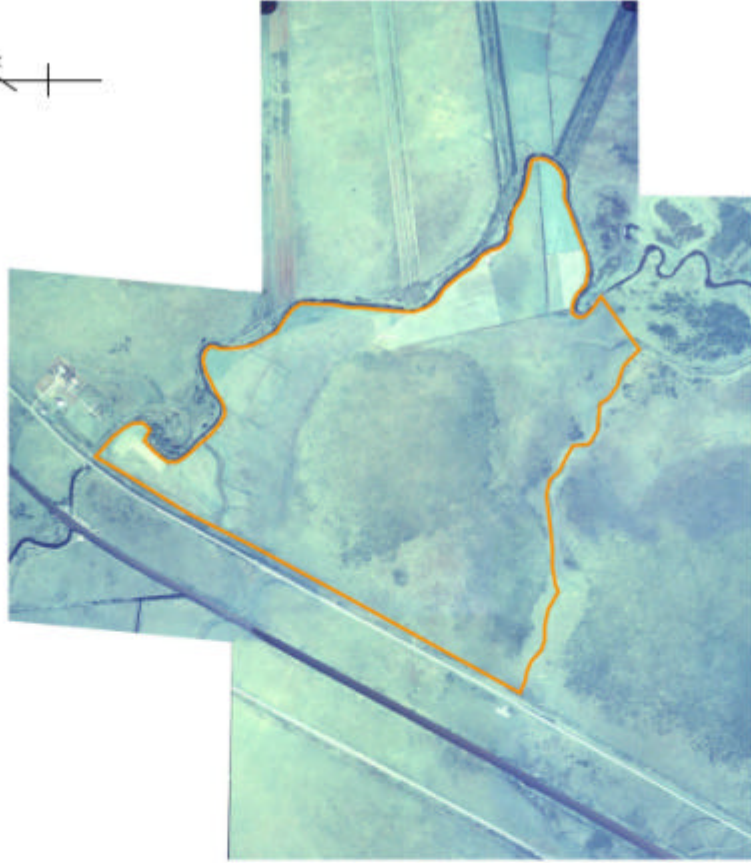
レーザープロファイラ(ヘリコプター等から地上へのレーザー光線の反射による計測システム)により、広里地区内の詳細地形の把握、ハンノキのバイオマス量の把握等を行う。

(5)調査時期

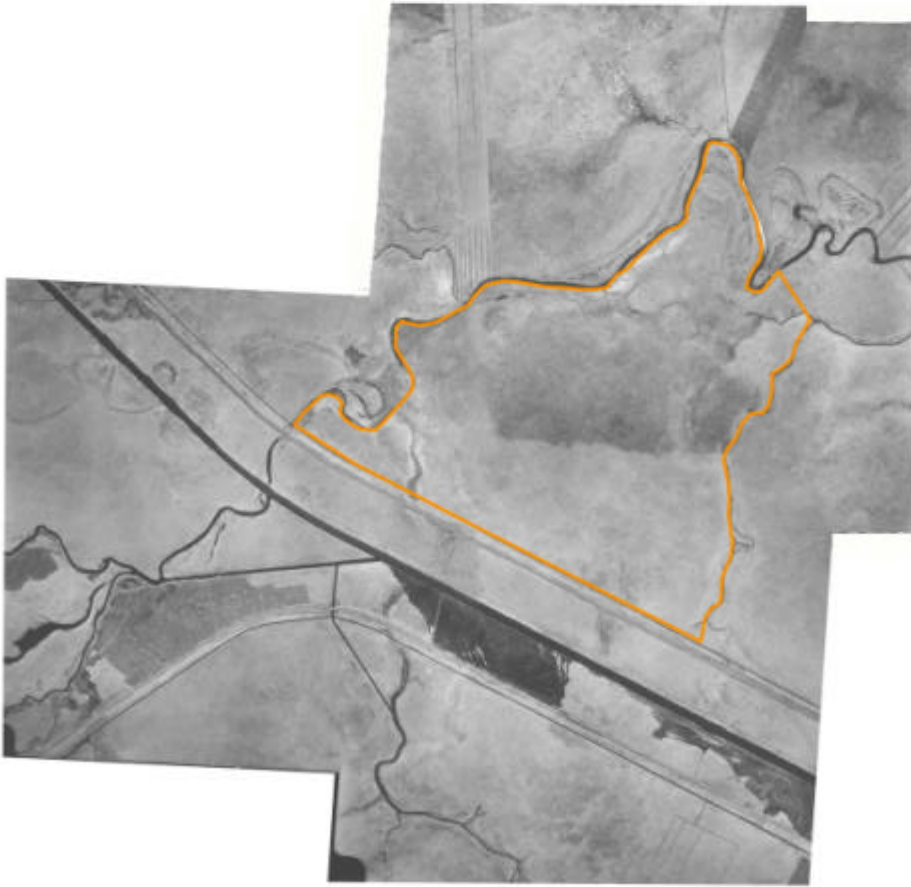
調査項目毎の調査時期は、調査計画表のとおり。

調査計画

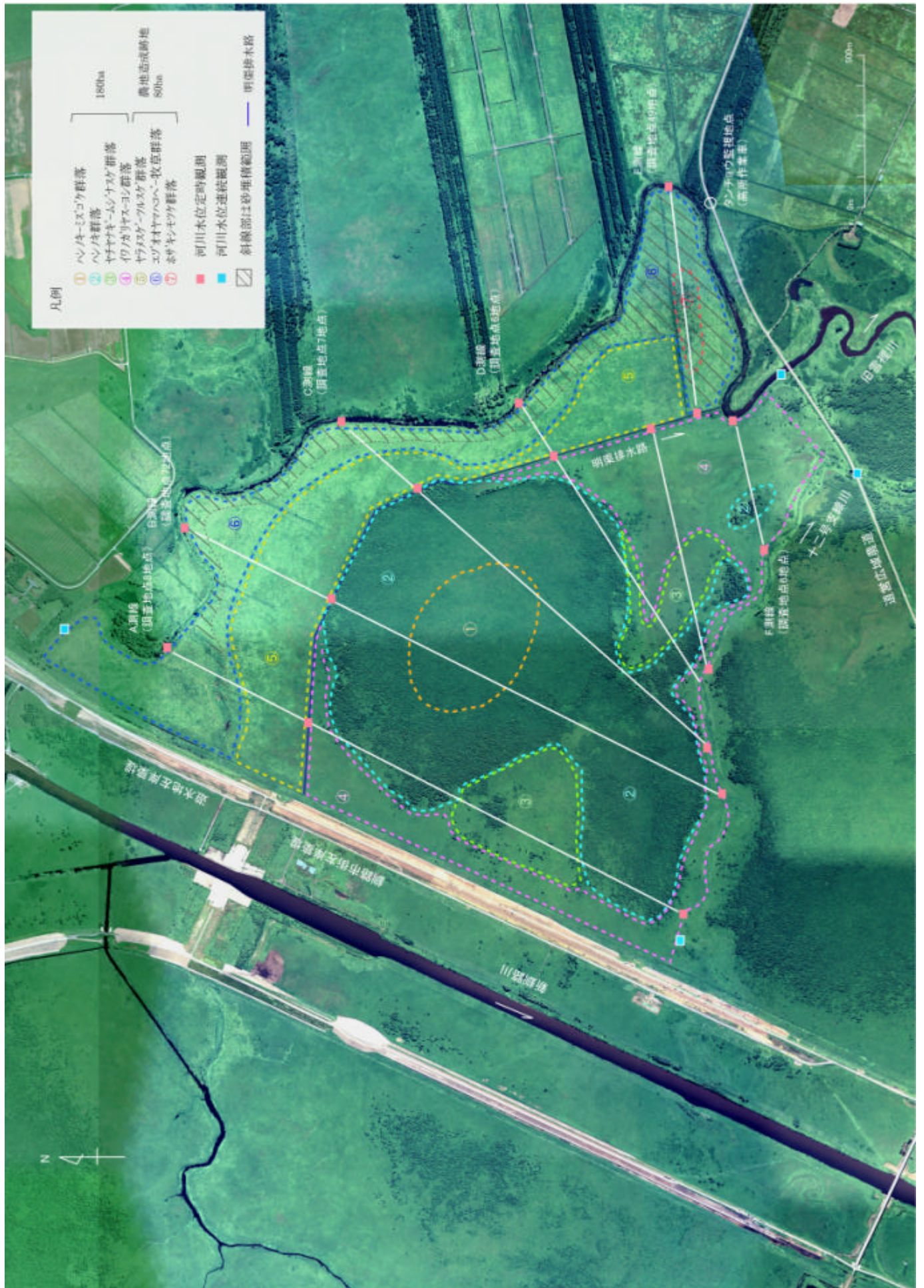
調査項目	調査月	平成14年						平成15年			備考			
		6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月		3月		
植生詳細解析調査	植物相調査													
	群落組成調査													
	樹齡調査													
	埋土種子調査	↕			↕									
	土壌水分分析													
地下水動態解析調査	地質調査													
	水位観測													
	地温・水温調査	↕					↕							
野生物詳細調査	哺乳類調査													
	鳥類調査													
	タヌキ													
	鳥類相													
	行動圏調査													
	採餌環境調査													
気象調査	爬虫類調査													
	両生類調査													
	昆虫調査													
	土壤動物調査													
	雨量・気温	↕										↕		
詳細地形図作成調査														



1977年



1961年



5 . 下幌呂地区湿原再生について

5.1 再生目標

(1) 概要

下幌呂自然再生箇所周辺の概要は、以下の通りである。

- ・ 広大な釧路湿原のなかで、西側台地の縁辺部に位置する。
- ・ 湿原部は農地に改変されたが、未利用農地となっている部分もある。
- ・ 耕作放棄された後、低地側にヨシやハンノキが侵入してきている。
- ・ 周辺の湿原は、ハンノキ林が増加しており、南側には、高層湿原や赤沼、池塘といった貴重な湿原環境が分布している。

(2) 目標

下幌呂自然再生箇所の目標は、以下の通りである。

- ・ 台地から湿原へと植生が移行していた以前の形態に近づける。
- ・ 地下水、表流水など良好な水環境の回復を図る。
- ・ 高層湿原や赤沼、池塘、周辺湿原に対するバッファーとしての機能を持たせる。



幌呂川地区の現況